

新市庁舎計画案デザインレビュー 主な質疑応答

質問者：野原 卓氏（横浜国立大学 准教授）
【質問1】 新市庁舎デザインコンセプトブックの内容を取り入れながら設計を進めていく段階だが、市民に開かれた市庁舎に対する考えは。
【回答】（槇総合計画事務所） 低層部をまちに開かれた空間にしていきたい。例えば、東京の青山スパイラルは、道がそのまま内部に取り込まれている。横浜らしさはワークショップなどで考えていきたいが、我々が予想もしなかった使われ方がなされていく、そういう汎用性が大切だと考えており、積極的な市民の意見が展開されていくことが期待される。 また、高齢者が落ち着ける場所が必要な時代であり、孤独を感じられる空間が大切である。孤独を楽しむ場を公共空間（＝無料）で実現することが必要。
【質問2】 寸胴でボリューム感が心配だが、高層部の設計について補足があればお願いしたい。
【回答】（槇総合計画事務所） 高層部は、高さの違う部分を作り、垂直ラインを強調した。三角形の敷地形状を意識し、基本的には四角い形だが、140mと150mの三角形をずらした形状とし、コーナーをしっかりさせた。 南北外壁面は、ガラスミラーで周囲の風景を映し出すようにし、東西面は、マットなファサードとした。大岡川沿いは、野毛側からのボリューム感など、地域の人々にとっての大岡川沿いの歴史性など、場所性を考えた。
【質問3】 陸の孤島のような場所だが、川の使い方などを含めた設計上の工夫は。
【回答】（槇総合計画事務所） 関内とみなとみらいの結節点であり、水と緑のネットワークなど横浜のアーバンデザインらしく点を線で結んでいく。自動車道やドックを望む川沿いのアトリウムが、そうした立地を生かした空間として市民利用されること、歴史と未来が融合する場として生かされることを期待する。魅力的な内水空間にエレガントな市庁舎をつくっていく。

新市庁舎計画案デザインレビュー 主な質疑応答

質問者：小泉 雅生氏（JIA 神奈川副代表、首都大学東京 教授）

【質問 1】

設計の進め方について、今回は基本設計からのデザインビルドだが、どう捉えているのか。

【回 答】（榎総合計画事務所）

当事務所としても初めての経験だが、アイランドタワーの隣であり、竹中工務店とのジョイントも含めファミリアな場所である。デザインビルドと公表された直後から二人三脚で進めてきたが、施工者がそういう考えを持たなければ、こうはならなかった。

デザイン監修者としては、榎が中心となって都市美対策審議会などと調整していく。榎事務所としては、設計チームの一員として設計デザインを行っていく。

【回 答】（竹中工務店）

本質的なデザインとは表層的なものではなく、それぞれの特徴を生かし、チームでよいものをつくるという意識。榎事務所は最後までデザイン監修を行う。

【質問 2】

設計者が最後まで関わっていく意志が確認できたことは大きな成果である。横浜が都市デザインに取り組んできた中で、今回、デザインコンセプトブックを示したことは今後のあるべき姿だと思うが、このやり方をどう捉えているのか。

【回 答】（榎総合計画事務所）

都市デザインが成熟したまちでの一つの形だと思う。このデザインコンセプトブックは、非常によくできており、現在の設計作業に際して、バイブルのようにして活用している。

【質問 3】

コンセプトブックを超える取り組みを期待しているが。

【回 答】（榎総合計画事務所）

コンセプトを空間化・建築化し、社会化していった結果、市民の人達が予想外の使い方をすることを期待している。